

会 議 録

会議の名称	平成21年度 第1回環境審議会
開催日時	平成21年4月20日(月曜日) 10時00分から12時00分まで
開催場所	田無庁舎 インゲビル3階第3・第4会議室
出席者	【委員】野田会長、伊藤副会長、北村委員、筒井委員、吉村委員、齋藤委員、堤委員、岡部委員、前島委員 【事務局】名古屋生活環境部長、小関環境保全課長、三城環境計画係長、西野環境計画係主査、佐藤環境計画係主事
議 題	1 (仮称)西東京市地球温暖化対策地域推進計画(素案)の検討 2 その他
会議資料の名称	【事前配布資料】 【資料1】(仮称)西東京市地球温暖化対策地域推進計画(素案) 【当日配付資料】 【資料2】検討用補足資料 吉村委員より参考資料
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
(10時00分 開会)	
1.開会 野田会長より挨拶 名古屋生活環境部長より挨拶 小関環境保全課長より挨拶 岡部委員より挨拶	
2.議案 ? (仮称)西東京市地球温暖化対策地域推進計画(素案)の検討 ? その他	
<事務局より【資料1】【資料2】の説明>	
<p>野田会長</p> <p>スケジュールの確認ですが、パブリックコメントを5月15日からの1ヵ月間で行う予定のため、今回がパブリックコメント前の最後の会議となっている。必要であればもう一度会議を行うことは可能ですが、本日パブリックコメントに出す内容として決めることを目標</p>	

として検討していただきたい。

3月は議会があり会議を行うことができなかったが、みなさんよりメール等で意見をいただいた。本日の資料No.2に、その意見概要と事務局修正案という形でまとめていただいている。本日は特に重点施策や実施体制について議論していきたい。事務局修正案に対し、意見はありますか。

筒井委員

資料No.1の8ページの2行目にある「このような危険な気候変動を回避するために…」という表現についてはこの前も議論になった点であるが、人々の暮らしを脅かすという意味合いだと思う。「このような状況を回避するために」という程度の表現でよいのではないかと。

9ページの飲食店の部分について、「捨てる、リサイクルする」の部分に「あまった調理くずなどは、堆肥化するなど、リサイクルに回す」という表現があるが、食品リサイクル法において、ごみの減量化ということで、調理くずや食べ残しなどは家畜の飼料あるいは肥料化すると定められているため、「あまった調理くずや食べ残しなどは、飼料化・肥料化するなど、リサイクルにまわす」という表現の方がよいのではないかと。

全体的には、審議会の議論を踏まえ色々なところを修正いただき、分かりやすくなっていると思う。

また、パブリックコメントにはこのまま出す形なのか、資料編は内部資料とするのかなどの位置付けについて教えていただきたい。

野田会長

基本的にはこのままパブリックコメントへ出す予定である。資料編は出すか。

事務局

前段のデータに関連する部分があるので出した方がよいと考えるが、会長、副会長と事務局において検討させていただきたい。

野田会長

基本的には出した方がよいと思う。また、今の筒井委員の意見の8ページ、9ページの文言については、修正した方がよいと思う。

堤委員

危険と言い切ってしまうのは強いが、危機的であるとか悩ましい状況を伝えたいという思いがあるため、「このような」という表現では弱いのではないかと。

筒井委員

それであれば、1行目にそういった内容を追記しないとだめなのではないか。生活を脅かすというような意味であればこのままでよいが、危険な気候変動という意味合いを取り入れるのであれば、何か付け加えないと文面が成り立たないと思う。

伊藤副会長

前段に付け加えるということではいかがか。

北村委員

「地球温暖化により、世界の人々の暮らしを脅かすような」の後に、例えば「無駄な消費」というような表現を付け加えれば、次の「このような・・・」へ続いていくと思う。

筒井委員

1文目にもう少し付け加えることが必要ではないか。このままいったら大変であるという意味合いが欲しいところだが、1文目だけで表現するのは難しいと思う。

齋藤委員

3ページに、地球温暖化がもたらすと予測される影響について書いてあるので、この部分を引用するとよいのではないか。この表を8ページに入れるというのはいかがか。

野田会長

「3ページ目にあるように」という表現ではどうか。

堤委員

3ページにページ数が入っていない。

野田会長

どこかの自治体で、温暖化では表現が弱いためもっと強い表現にするという話があった。だが、実際に温暖化になるとは立証されておらず、寒冷化する可能性もあると言われている。今の段階ではこのような表現が妥当かと考える。

堤委員

学者が温暖化や寒冷化について議論していることは、横に置いておいてよいと思う。IPCCが結論を出して、それに基づき人類が何をやるかということが、今、話し合われている。例えば、火災保険などは実際に遭遇する人はそうそういないであろうに、予防ということで、相応の対策をするのと似ていて、温暖化するかもしれないかを議論しているのではなく、もし想定されることが起きた場合の地球規模のリスクの大きさを思えば大変だから予防の対策を打とうとしているのであり、そのあたりをもう少し理論的に市民に分かっていただけたらと思う。

吉村委員

ご意見はもっともだと思います。この場で地球温暖化の真偽について私達が論議するのは、あまり生産的ではないと思う。私自身の意見としては会長に賛成である。後年、温暖化が科学的に否定され、それにしても温暖化対策をずいぶん前のめりにやってしまったということになるかもしれない。ただそれでも、可能性としては起こるかもしれない温暖化に対し、エネルギー過剰消費の現代生活を見直そうというのが、私達の地域推進計画の内容であると思う。だから、このまま表現はさらっと書いておいて、だが、生活を見直すた

めの取組はしっかりやりましょうということではいいのではないか。

岡部委員

3ページに予測される影響がきちんと書かれているので、このような表現でよいと思う。また、全体的に今の内容でそれほど問題ないのではないかと思います。個別の箇所については、それぞれ議論があるかと思う。

野田会長

資料No.2に要検討として挙げられている点について、意見をいただきたい。事務局案のように修正を行うこととする。続いて、5番の意見について伺いたい。

齋藤委員

「1.地球温暖化とは」の後に入れた方が分かりやすいのではないかという意見である。計画の目的、位置づけから計画期間、基準年度、計画の推進体制へとつながった方が分かりやすいのではないか。

野田会長

京都議定書で6種類のガスが決められているため、京都議定書の説明があってこの順番になるのではないかと考えていた。

齋藤委員

京都議定書の説明を入れた上で、順番を変更したらよいと思う。

堤委員

賛成である。

野田会長

移動することとする。6番目の意見についてはいかがか。

岡部委員

何に対してかという点が明確でないため、それを明確にした方がよいのではないかという意見である。広く三者が協力していくという捉え方もできるが、個別であるなら具体的に示した方が分かりやすい。包括的に三者が協働していくということであれば、それが分かるような表現がよい。

伊藤副会長

協働に対してコメントを書いた方が分かりやすいのではないかと思います。

野田会長

市や国や都の施策に協力するということと、市民・事業者からの提案に対して他の二者も含めて協働していくというニュアンスだと思っている。目的語が入っていないため分か

りづらい。政策に協力するというニュアンスを外したのが今までの議論だったと思う。

伊藤副会長

協働という用語が突然出てきて、それに対する説明がない。協働の下に、三者がそれぞれ協力する、というような文面を入れたらよいのではないか。

北村委員

それぞれの立場で解決していき、さらに声を掛け合って連携していく、というように考えている。

伊藤副会長

それぞれの主体の記述の2項目が繰り返し書いてあるが、削除し、協働としてまとめて書いた方がよいのではないか。

吉村委員

伊藤副会長が言われたようにした方が分かりやすいかと思う。

伊藤副会長

同じ言葉を繰り返すよりも、協働について書いた方が分かりやすい面があると思う。

北村委員

市民一人ひとりが問題意識を持って解決し、さらに大事だと思ったことを市を通して呼びかけ協働にしていく、ということが大事だと思う。

筒井委員

「7. 計画の推進体制、各主体の役割」の下の文章の部分に、「市民・事業者・市がそれぞれの役割分担を果たし」というような表現を入れたらよいと思う。

北村委員

「それぞれの役割を果たし、かつ、連携をしていく」というようなニュアンスである。

野田会長

「協働とは…」というコメントを入れ、図中の文はカットする。

筒井委員

前回の議論では、市が色々促すのではなく、市民や事業者が行うという考え方をしていたと思う。

北村委員

読んでいくと協働という言葉が非常によく出てくるが、曖昧な感じがする。

野田会長

では以上のように修正を行う。続いて8番目の意見ですが、13ページの表の中で環境意識調査の結果を入れてあるが、かえって分かりにくくなっている、という意見である。

伊藤副会長

表現の仕方として主な特徴の中に意識調査も入れてあるから分かりにくいということか。

岡部委員

同列に表記されているため、分かりづらいという意見である。

筒井委員

主な特徴、課題、環境意識調査としたらよいのではないか。

北村委員

環境意識調査の結果が書いてあることは大事だと思う。

筒井委員

このままの表記とするか、もうひとつ項目を付け足すかという問題である。

野田会長

分かりやすい表を作っていただくこととする。続いて、15ページに削減目標値の計算式を入れた方がよいのではないかという意見である。

堤委員

一般の市民の立場となって、市が何を言っているのか理解しようという気持ちで読んでみると、あちらこちらに数字の引用が不明なところがある。色々なところから数値を拾ってこないと分からないため、一般市民には分かりづらいと思う。

野田会長

計算式を入れた方がよいと思う。

北村委員

賛成である。式の下に(×)というように説明する言葉も入れた方がよい。

堤委員

この数字が何を意味するのか、ということを書くべきである。25%という数値を入れるべきである。

筒井委員

どこに入れたらよいか。

野田会長

意見で出た形でよいと思う。16、17ページの表の作り方が変わるかと思うが、修正を加えていただきたい。

齋藤委員

15ページについて、25パーセントがどこから来たかが分かりにくい。前のページには25パーセントの目標とあるが、西東京市における目標設定の考え方の部分では、東京都の記述が曖昧である。もう少しここを詳しく書かなければいけないのではないかと思う。

東京都の目標については4ページに書いてある。その部分をもう一度具体的な数値を上げて取り上げた方がよい。二重になったとしても、大事なところだから書くべきである。

筒井委員

4ページの東京都の部分をもう一度掲載したらよいと思う。

野田会長

東京都の動向の部分を再掲し、厚みを増すということで修正を行う。

北村委員

今の意見の次の文の書き方について、「西東京市は東京都を構成する一自治体として、また地球の一員として」という書き方ではどうか。その方が25パーセントという数値が明確に出てきて分かりやすいと思う。

野田会長

そのように修正を行う。

続いて、18ページ「2.基本方針」のタイトルを変えた方がよいのではないかという意見である。

筒井委員

15ページの見出しで、「1.削減目標」で「2.基本方針」となっているため、その上の見出しは「3 削減目標」だけでよいのかと思う。「削減目標と目標達成のための基本方針」などとした方がよいのではないか。長くても、タイトルを見て中身が分かればよいのでは。

齋藤委員

中身をみると、本当に基本方針というタイトルでよいのかと思う。19ページの記述の前ふりという感じである。

筒井委員

基本方針というよりも、基本的な考え方という感じである。

伊藤副会長

18ページの部分は、次の4の前段に来る方がよいのではないかと思った。は「削減目標」だけで整理してしまい、次につなげた方がすっきりするのではないか。

野田会長

18ページは4に入れ「基本理念」とした方がすっきりするのではないか。

伊藤副会長

18ページの最初に「温室効果ガス削減に向けた取り組み」が来た方がよいか。

野田会長

方針という言葉を使っているのに具体性がないということか。

吉村委員

基本的な考え方という表現が適当ではないか。

北村委員

基本的な取り組み方というのはどうか。

吉村委員

そうすると、4の中に基本方針をいれ、「削減に向けた取り組みの姿勢」というようにしたらどうか。

野田会長

パブリックコメント用なので、今のようなまとめ方をして反応をみるということもありかと思う。一般の方が読んだ時に意外な落とし所があるのではないか。

「削減目標」は章として独立させ、その上で、18ページの「基本方針」は「基本姿勢」、「前提条件」というような形とした方が分かりやすいと思う。

吉村委員

15ページのどれだけ削減する必要があるかという部分について、2000年度と比べて25パーセントといているが、2020年度に比較すると「実に34.1パーセントの削減となる」という刺激的な表現が必要ではないか。

筒井委員

前回は議論があったと思うが、通常は基準年度に対して何パーセント削減という示し方が一般的である。このまま対策をとらずにいくと2020年度には584.4千トン-CO2になるということで、記述としてはこのままでよいのではないかという議論だったと思う。

吉村委員

削減目標の部分の章として独立させるという案を聞いて、書いたらよいのではないかと思ったのだが・・・。

筒井委員

現実問題として、25パーセント削減というのは相当努力しないと目標値に近づけないものである。

伊藤副会長

今から25パーセント削減というイメージだけが先行してしまう面もある。

堤委員

小さく書いておくべきではないか。

伊藤副会長

並列して書いてしまうと良く分からなくなってしまうので、少し分けて書いたほうがよいのではないかと。

北村委員

繰り返しになるが、削減目標の部分は大事なものである、独立させるべきである。

伊藤副会長

タイトルを「温室効果ガス削減目標」としたほうがよいか。

筒井委員

具体的なほうが分かりやすい。

北村委員

「西東京市の削減目標」や、「私たちの削減目標」とした方が、分かってもらえると思う。

野田会長

「3.削減目標」は独立させ、タイトルは「西東京市の削減目標」とする。「1.削減目標」は削除し、削減目標の算出数値をきちんと記述する。2020年度の対策なしの場合からすると34.1パーセント削減しなければならないということを、フォントを小さくするなど工夫して記述する。

18ページの基本方針は「4温室効果ガス削減に向けた取り組み」の最初へ持ってきて、あとは順次番号をずらしていく。基本方針のタイトルは「取り組む姿勢」へ変更する。

図などを検討いただいて、前回よりかなりよくなっていると思う。前は20ページ以降について、重点施策の後に施策という並び方だったが、協働の取り組みを入れたことにより変更されている。31ページからの重点施策については、少し修正があるがそれほど大きな変更点はない。40ページからの推進方策についても前回・前々回と基本的には同じで、一部修正が入っている形である。

推進方策については、これでよろしいか。地域協議会が入ると主体的な役割をするとい

うことで市より提案があり、面白いと思った。書き方としてもこの程度でよいかと思う。

吉村委員

地域協議会については、この計画の成否を占うような存在だと思う。パブリックコメント前だとこの程度までの記述なのかと思う。パブリックコメント終了後、市が主体となって早急に立ち上げていくことが重要である。事業者も含めて、推進していくことは非常に難しいと思うが、今の段階ではこのような記述が妥当か。

筒井委員

「推進体制、進行管理の体制」とあるが、パブリックコメントを終えて意見修正を加え、それから動き出すものなのか。

事務局

地域協議会の現在の進捗状況というわけではないが、事業者や市民による環境保全活動推進委員がいて、環境基本計画の重点として温室効果ガスに関する取り組みを行っている。それがそのまま地域協議会となるかはまだ決まっていないため、今後庁内で検討させていただきたいということで、このような表現としている。

庁内推進体制についても、環境経営本部で庁内のマネジメントシステム、環境基本計画の進行管理を行っている。

庁内で複数の組織を作るよりも、これらを含めるような組織として進行を行っていきたいと考えている。パブリックコメントと同時期に庁内調整を行うので、その時期に検討したいと思っている。

北村委員

40ページの環境審議会の役割として、目標や施策の妥当性の判断とあるが、目標とは具体的にどういうものか。

事務局

計画における目標のことである。

筒井委員

そういうことであれば、表現がおかしい。目標はすでに定めているため、妥当性を判断というのはおかしいのではないか。

事務局

文言を修正します。

北村委員

地域協議会と自治会とは異質のものか。

事務局

市民協力をいただくという面から考えると、自治体の組織の中から考えなければならない面がある。内容についてこれから検討する際のご意見としていただきたいと思う。

野田会長

40、41ページは基本的にこのままでよいか。

前島委員

進行管理は非常に重要であるため、点検を行うのはどこで誰が行なうのかという点をきちんと決めておかないと実効性がないものになってしまう。PDCAサイクルの中で点検評価は重要な点である。

軌道修正する必要が出てきた時に誰がトータルで判断するのか、下方修正を行うか、どこかに呼びかけを行うか、などのシステムを作っておくべきである。

伊藤副会長

現状としてはこの程度なのかと思う。どのような体制をとりチェックをしていくのかについては、パブリックコメントをした後に検討していくという認識でいる。

吉村委員

庁内推進委員会も、形だけ横断的に作るのではなく専属の担当事務局があるのであればよいが、現行のシステムでは実際難しいと思う。項目出しをしておいて、パブリックコメント後に検討していくことが必要である。

北村委員

パブリックコメントでこの部分について意見を言われることもあると思う。計画を作るのは簡単であるが、誰がランニングさせ、費用は誰が負担し、チェックはどうするかという点が問題である。かなり意見が出てくる可能性はあるが、項目出ししておくことが必要かと思う。

前島委員

どこで誰がチェックし、修正を呼びかけていくのか、実際に行政がそれをできるのかという面からも、実行値のある目標かどうかを精査していく必要がある。

伊藤副会長

パブリックコメント前の資料に織り込むか後にするかであり、いずれは決めていかなければいけないことである。

野田会長

パブリックコメントまでに詰められなかったが、今後の論点として認識はしています、という考えを入れてもよいのではないか。

吉村委員

21ページに地域協議会設置という表現を入れていただいた。認識しているという点ではこれでよいのではないかと思う。

北村委員

基本方針の取り組み姿勢ということが見えてくると、今後、西東京ルールというような流れが出てくるのではないかと思う。

野田会長

西東京モデルが謳えたらよいと思う。いずれはそういうことに出来ればよい。今はこういった形ということによろしいか。

岡部委員

実行計画をどう定めていくかが今後大きな要素となる。推進計画の見直しも必要であるが、2、3年という短期の中で実行計画を定めていく中で、個々の対策の点検評価につなげていかなければならないかと思う。

吉村委員

計画の実行を担保する体制づくりはこのような形でよいか。

岡部委員

パブリックコメントを受けてその後どうやっていくかということであり、パブコメ前の計画としてはこのくらいでよいのではないかと思う。

野田会長

これでパブリックコメントへ出すこととし、その後精査するということがよいか。

< 異議なし >

野田会長

重点施策についてはこれまでも話合ってきたが、修正・変更などがあればおっしゃっていただきたい。文章の順番、組み立て方についてもご意見をお願いしたい。

また、16ページの積み上げの根拠を文章中に明示していないが、重点施策に基づいてアンケートの数値から算出したということを明記した方がよいかについて、ご意見をいただきたい。

60.9千トン-CO2という数値がぱっと出てくるが、分からないと思う。審議会では議論してきたため共通の認識があり分かると思うが、一般には分からない。この算出根拠を出すか出さないか、資料を出すにしても本文中に出すのか参考資料に追加するのかという点について、意見をいただきたい。

伊藤副会長

本文中で謳った方がよいと思う。表の中でもよいが、推進計画の中で謳うべきである。

60.9千トン-CO2という数値が削減のもとであるので、出さないのは不親切である。

岡部委員

市民から必ず聞かれることだと思う。あらかじめ出しておいた方がパブリックコメントでより詳しい意見が聞けると思うので、資料などを出した方がよいと思う。

筒井委員

資料編をパブリックコメントに出すかということであるが、算定結果が66ページに載っている。こういった資料を出すのであれば、削減目標の積算根拠などは絶対に聞かれると思う。原単位の部分については難しいと思うが、市が中心となっていく部分について、説明をどの程度するのか。削減目標の数値はアンケートに基づいて出てきた数値か。

伊藤副会長

アンケート調査の結果に基づいて想定、算出したものである。

野田会長

重点施策の中に数値が書いてあり、これを足していったら削減目標の数値となるということである。重点施策の中に根拠は書いてあるため、こういう根拠で積算したということを入ればよい。

伊藤副会長

重点施策のみについて、アンケートに基づいて試算したものによるものである、ということである。

筒井委員

資料編で、計画策定の経緯というのは今回出すのか。

事務局

パブリックコメントには出さない予定である。

筒井委員

用語解説についても同様か。

事務局

難しい用語は説明が必要だと思うため、入れたいと考えている。事務局で精査する。

齋藤委員

14ページの最後に代替フロンとあるが、それまでに記述がなく急に出てきているので、分からないと思う。PFCなどの代替フロンというように書いた方がよいと思う。

また、7ページの図の中の市の1行目、「対策推進の働きを作り出す」という表現はすっきりしないのでないか。

吉村委員

私から説明します。市の役割として、(1)様々な具体的施策を実施し、(2)自らも一事業者として(市地球温暖化対策実行計画)削減に努める・・・に加え(3)として、調整や連携で協働の動きを作り出すというものがあると考えた。文章を考え直すのであれば、動きを作り出すというようにした方が考えに近いかと思う。常に行政(市)が推進エンジンとなる、というような意味合いを言いたかった。

伊藤副会長

一言で表すのが難しいと思う。

野田会長

できるだけ適切な表現を考えることとする。

岡部委員

ムーブメントを作り出すとか、調整をするとかいう感じかと思う。

堤委員

西東京市と書かず、何故「市」なのだろうかと思っていた。西東京市とすれば、西東京市がやるという意気込みが伝わると思う。

北村委員

そうすると、市民も西東京市民としなければならない。

伊藤副会長

市の方は西東京市とし、市民はそのままでよいのではないか。

野田会長

堤委員が言うように、意思が伝わると思うため、西東京市としてよいのではないか。

事務局

西東京市というエリアと、市という行政としての部分があるため、統一してしまうと微妙な部分を表現できないという面があるため、検討させていただきたい。

吉村委員

28ページ、「体験農園の運営を行います」となっている部分は、「体験農園を設置します」でよいと思う。

北村委員

10、11ページの表の温室効果ガスの排出量について、堤委員より確認を願う意見が出ていたが、2006年度の温室効果ガス排出量と2007年度の二酸化炭素排出量が509.8トンと一

緒なのは、偶然なのかについて聞きたい。

堤委員

数値がそっくり同じなので、記載のイージーミスなのかどうか聞きたい。

事務局

66ページに算定結果の一覧表を載せている。誤りではないが、もう一度確認を行う。

< 吉村委員より、森林育成によるカーボンオフセットと自転車専用道関連の配布資料の説明 >

北村委員

しっかりと削減に取り組むとともに、西東京市は北杜市や勝浦と姉妹都市であるため、そういったところと夢のある取り組みも行っていけたらよいと思う。

堤委員

フランスでは自転車レースがさかんである。日本にはそういうレース場がないため、出来たらとてもよいとの話を聞いた。西東京市がそういったことをできたら良いと思う。

野田会長

予定どおり、パブリックコメントは5月15日からということでよいか。
細かい修正については事務局と副会長、私で調整させていただきたい。

< 異議なし >

事務局

次回スケジュールですが、7月の月曜日でお願いしたい。13日か27日でしょうか。

野田会長

7月27日（月曜日）10時からでいかがか。場所はまた連絡をお願いしたい。

事務局

変更があるようでしたら、事務局より調整をさせていただきたい。

野田会長

これで、第1回環境審議会を終了したいと思います。

（12時00分 閉会）